

令和5年度自己評価

いなほガーデン星の子幼稚園

1. 幼稚園の教育目標

- ・あらゆる環境に能動的に働きかける事ができる心と身体を育てる。
- ・集団生活を通し他者の自由を認める事ができる心を育てる。
- ・自己目標に向かっていける心を育て、自己肯定感を育てる。
- ・リスクという危険を体験し、危機予知能力を高める。

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

- ① 園の理念・基本計画を理解し、教育保育に活用する。
- ② 園の運営・管理(分掌内容)を理解し自分の分担の仕事を遂行する。
- ③ 保育計画に基づいて、環境構成や子どもの見取りを工夫し保育を実践する。
- ④ 子どもの安全のための環境の快適さ、清潔さや安全性を確保する。
- ⑤ 保護者対応(相談、連絡、援助)の向上を目指す。
- ⑥ 職員は、研修に対して積極的に参加し、教育・保育の質の向上を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み内容	自己評価	評価
園の理念・基本計画を理解し、教育保育に活用	・年間の指導計画や週案の作成 ・学年ごとの協力的な保育指導	園の教育目標を、朝礼、職員会議により全職員で共有をはかった。学年ごとには年間の指導計画や週案の作成、主幹・学年主任を交えた振り返りを行ない個々を指導した。	A
園の運営・管理(分掌内容)を理解し自分の分担の仕事を遂行	・役割分担の組織表の作成 ・カテゴリーごとにリーダー、サブリーダーを中心に遂行	各自が自分の役割分担を理解し、仕事を遂行できた。また、リーダーを中心に仕事内容の改善や協力体制をとり、スムーズにできた。	A
保育計画に基づいて、環境構成や子どもの見取りを工夫し保育を実践	・「遊び中心の保育」を念頭に保育計画の作成 ・室内環境、園庭環境の工夫	主幹教諭・指導教諭を中心に学年主任・担任副担任へと保育の内容を共有し、話し合い、改善し、子どもが主体的に活動できるような保育計画を立案・実践できた。 環境についてはまだまだ創意工夫が必要な余地が残っていると思われるので、今後も教員のチームワークで改善・工夫していきたい。	B

子どもの安全のための環境の快適さ、清潔さや安全性を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「かもしれない」の意識で子どもの安全を考え実践する ・常に清潔を意識する。感染症などの対策を意識する 	<p>園内での子ども目線での危険性を考え、クラス内、廊下、階段、棚の上、園庭など事故防止対策に努めた。</p> <p>課外活動が多いが、道路、公園、川、海など場所・園児数により引率の職員の人数をきめ、安全に保育活動できるよう努めた。</p> <p>しかしながら、あぶない場面や怪我等はあったため、ヒアリはっと事案をはじめ、書類に残し、職員全員での共有を行っている。</p>	B
保護者対応（相談、連絡、援助）の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリでの保育の様子を週3回送信する ・保護者が相談しやすい環境をつくる 	<p>保護者へアプリや電話連絡などによる情報発信や、「保育参加」による現場の体験、課外活動の提供、町内会活動など、教員と保護者との接点を増やし、コミュニケーションをとってきたが、まだまだ十分とはいえない。来期は土日の園開放などいろいろな施策を考え実践していきたい。</p>	C
職員は、研修に対して積極的に参加し、教育・保育の質の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の質の向上をめざす ・園外研修 ・園内研修 	<p>主幹・指導教諭による個別指導、園外研修の30時間以上の履修、外部講師を招いての園内研修を行ってきたが、まだまだ不十分であり、教える側からの一方通行が多く、教わる側の発信を増やして実りあるものにしたい。</p> <p>来期は、公開保育、ESEQへ積極的に取り組みたい。</p>	C

4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合的な評価内容	評価
<p>教員全体のチームワークで、教育目標に沿った保育活動、園児一人一人に目が届き個々に対応した保育活動、園児の安全に配慮した保育活動ができたと思う。半面保育者の個々の能力に大きなばらつきがあり、保育者一人一人のできていない部分を補い、できている部分を伸ばす研修や、全体のレベルアップが必要と思われます。保護者のみなさまとの交流をする機会なども今後模索していき、より相談しやすい幼稚園となるように努めていきたいと思えます。</p>	C

【評価基準】

A	十分に達成されている
B	ほぼ達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分ではない
D	取り組みが不十分である

5. 今後の取り組むべき課題

① 保護者との連携

子育て支援、相談、講演会など園と保護者との連携を模索する

② 研修(資質向上の取り組み)

園全体としてECEQに取り組む。保育者は履修していない研修を履修をする

③ 環境を考える

クラス、ホール、廊下、園庭など子どもたちが自分の活動が振り返ることができ、自信につながるような工夫を考える